

セカンドオピニオン

阿部酒造株式会社
SDGs リンク・ファイナンス

発行日:2025 年 7 月 31 日

発行者:第四北越

リサーチ&コンサルティング株式会社

本文書は、SDGsリンク・ファイナンスに関するセカンドオピニオンである。

1. 借入人の概要

(1) 事業概要

- 阿部酒造株式会社(以下、同社)は、1804 年に新潟県柏崎市で創業した歴史のある酒造会社であるが 2010 年頃には酒造りを縮小させ、酒販業を主に行っていた。その後、同社6代目である阿部裕太氏(以下、同氏)が 2014 年に「株式会社ぐ Local」を立ち上げ、会社と会社との契約という形式で廃業寸前であった家業の「阿部酒造」を引き継ぎ、酒造りを継続することにした。
- 同氏は同社を引き継ぐまで酒造りに携わったことがなく酒造りに関しては全くの素人であった。醸造基本試験場で酒造りの基本を勉強した後に同社5代目である父に教えを乞うとともに、地元である柏崎市の蔵元を訪問し酒造技術を教わるなどして技術を身に付けていった。
- 同氏は「阿部酒造」の主要銘柄であった「越乃男山」の造り方を一から見直し、新しい酒造りに挑戦した。加えて、地酒専門店と直接販売契約を結ぶなど様々な取り組みを実践した。このような取り組みを通じて、同社製品の販売店は全国各地にとどまらず、北米、ヨーロッパ、アジアなど海外に広がるなど、特色のある酒造会社として発展を続けている。
- 「阿部酒造」の現在の代表銘柄は「あべシリーズ」である。同氏が 2015 年に立ち上げた新シリーズで通年提供の製品から季節限定の製品まで展開しており、同社では最も製造数量が多くなっている。また、「あべシリーズ」のほか、当地の酒米を使用した「★(スター)シリーズ」や「圃場別シリーズ」を展開するなど、酒造りを通じて柏崎地域の自然風景や農業生産者を守る取り組みにも力を入れている。

【同社の製品】



あべシリーズ

6代目製造責任者・阿部裕太が2015年から立ち上げた新ブランド「あべ」シリーズ。すべての酒を原酒とし、米の旨味と酸味を感じられる設計で醸している。通年提供のお酒から季節限定酒まで展開しており、阿部酒造...



★(スター)シリーズ

阿部酒造の進化を加速させる挑戦酒、★(スター)シリーズ。日本酒の味わいや香りの幅広さを知ってほしく、あべシリーズの製造手法からさらにエッジを効かせたレシピで醸造。12～15度の低アルコール原酒で、72...



圓場(ホジョウ)別シリーズ

・酒で柏崎と米農家の方々に興味を持ってもらい足を運んでもらう・酒で柏崎地域を活性化させる・酒で柏崎の景色を守る地元・柏崎への想いではじまった圓場別(ほじょうべつ)シリーズ。レシピを統一しながら「田んぼ...



企画品

THE SAZANAMI米が柔らかい年にリリースされる酒「THE SAZANAMI」。溶けやすい米で造る酒は、味のりがしやすい。米本来の旨味を表現しながら、軽やかに飲める低アルコールでクリアな味わいで...

資料:阿部酒造の Website <https://www.abeshuzo.com/>

【同社の蔵人(2024-2025 年度)】



資料:阿部酒造の Website <https://www.abeshuzo.com/>

(2) 同社の酒造りの方針と理念

同社は、以下の「造りの方針 | 4つの理念」を掲げ、一般に公表している。

【同社の造りの方針と4つの理念】

造りの方針 | 4つの理念

1. リストランテの最初から最後まで

お客様が当蔵の酒を飲んでもらう“シーン”を考えながら酒造りを行います。
食前、食中、食後それぞれのタイミングで飲むことができるようなバリエーションの多いお酒造りを目指します。

2. 常に発酵を楽しむ(Enjoy!!)

とにかく造りを楽しもう!! やりたいことはどんどんやろう!!

3. 「圧倒的に」うまいを目指す

ただの美味しさに満足しない・目指さない。手間隙を惜しまず造り手として突き抜けた圧倒的なうまさを目指します。その為には、他社よりも10倍、100倍努力が必要だと考えます。
何か造りで悩んだときはこのマインドをしっかりと意識してものづくりに取り組みます。味の軸は“米の味をしっかりと出すこと”と“酸”を意識した酒造りを行います。

4. 常に挑戦者であれ

伝統産業である日本酒業界。ですが、時代は変わり日本酒業界は斜陽産業です。変わらなければ沈んでしまいます。僕が戻る前1度廃業を考えた蔵です。底辺を一度見たからこそ、常に挑戦をし続け、常に成長をし続ける蔵でないと生き残れないことを実感しました。
その為、この考えは阿部酒造が存続する為に必須と考えます。阿部酒造は常に挑戦者であり、常に成長をし続け地元柏崎に貢献します。

阿部酒造 6代目製造責任者 阿部裕太

資料:阿部酒造の Website <https://www.abeshuzo.com/posts/philosophy>

また同氏は、「阿部酒造が目指すもの」として「発酵を楽しむ」「地域とともに生きる」「圧倒的にうまい酒を目指す」の3つを掲げている。同社は若い蔵人が多く所属しており、酒造りの経験値が他社と比較して少ないという弱点がある。一方、その弱点を逆手にとって、若さを活かした全力投球でスピード感のある酒造りに挑戦し、「誰が飲んでもうまい」と言われる日本酒を生産することを目指している。

2. KPI の選定

KPI の選定は、以下の観点から適切である。

(1) KPI の概要

KPI (重要業績評価指標) は、「従業員の年次有給休暇の取得率」である。同社の 2024 年 12 月期の従業員 (合計 13 名) の年次有給休暇取得率は 50.0% であり、今後、有給休暇の取得向上を通じて、より働きやすい職場づくりに取り組むことを目指している。

なお、有給休暇取得日数は同社のデータベースで一元的に管理されており、定量的に把握できるものとなっている。

(2) KPI の重要性

2018年に働き方改革関連法が成立し、改正後の労働基準法が2019年4月から順次施行されている。有給休暇の取得についても年 10 日以上 of 年次有給休暇が付与される労働者 (管理監督者を含む) に対して、年次有給休暇の日数のうち年5日については、使用者が時季を指定して取得させることが義務付けられることになった。政府は働き方改革を進める中で、労働者の有給休暇の取得を促進させる方向にある。

なお、厚生労働省がまとめた2024 年の就労条件総合調査によると、労働者の年次有給休暇の取得率は65.3%となり、2019年 (52.4%) から10ポイント以上上昇している。また、厚生労働省「過労死等の防止のための対策に関する大綱」(2024年8月2日閣議決定)において、政府は2028年までに「年次有給休暇の取得率を70%以上」へとさらに上昇させることを目標として掲げている。こうした中、同社が従業員の有給休暇の取得率を引き上げていこうとする取り組みは、政府の目指す方向とも合致しており、有意義であるといえる。

加えて、前掲した同社の「造りの方針 | 4つの理念」の一つである「『圧倒的に』うまいを目指す」を実現していくためには、従業員一人ひとりが仕事上の集中力を高めることが必要である。一方、オフの時間には十分にリラックスすることも大切である。オフの時間を確保するためには、年次有給休暇の取得率を引き上げていくことが重要であることから、同社が目指すべき方向と KPI は一致しており、有意義なものとなっている。

なお、KPI は同社の取締役会で、その達成状況を定期的に確認・協議するなど、経営陣が適切に管理していく方針にある。

3. 年次別目標の設定

年次別の目標は、以下の観点から適切である。

(1) 年次別目標の内容

同社は、KPI である「従業員の年次有給休暇の取得率」を年次別目標に設定した。達成目標は判定期ごとに設定されており、毎判定期の達成状況をみて判定する。

なお、同社は第四北越銀行の協力を得て、年次別目標を設定している。

【従業員の年次有給休暇の取得率の年次別目標値（白抜きの数値）】

判定期	有給休暇の取得率
2024 年 12 月期（実績）	50.0%
2025 年 12 月期	55.0%
2026 年 12 月期	60.0%
2027 年 12 月期	65.0%
2028 年 12 月期	70.0%
2029 年 12 月期	71.0%
2030 年 12 月期	72.0%
2031 年 12 月期	73.0%
2032 年 12 月期	74.0%
2033 年 12 月期	74.5%
2034 年 12 月期	75.0%
2035 年 12 月期	75.5%
2036 年 12 月期	76.0%
2037 年 12 月期	76.5%
2038 年 12 月期	77.0%
2039 年 12 月期	77.5%
2040 年 12 月期	78.0%
2041 年 12 月期	78.5%
2042 年 12 月期	79.0%
2043 年 12 月期	79.5%
2044 年 12 月期	80.0%

(2)年次別目標の適切性

①同業他社等との比較

厚生労働省がまとめた2024 年の就労条件総合調査によると、労働者1人あたりの年次有給休暇の平均取得率は前述のとおり 65.3%となっている。これに対して、同社の有給休暇取得率は2024 年12 月期の実績で50.0%となっており、全国平均を15.3 ポイント下回っている。今後同社は、有給休暇取得率の引き上げに取り組み、2028 年12 月期に70.0%、その後順次取得率を向上させていき、2044 年12 月期には80.0%に到達させることを目指している。これは政府目標（2028 年の有給休暇平均取得率 70%）を同時期に達成するものであるとともに、2029 年度以降さらなる引き上げを図っていくものである。したがって、同社が掲げる年次別目標は適切であると判断できる。

②達成方法と不確実性要因

有給休暇を取得することによって心身の疲労回復やリフレッシュ効果など、従業員にとって大きなメリットがあるほか、企業にとっても従業員のモチベーションや生産性の向上、さらに人材の定着率向上も期待できるなどのメリットがある。

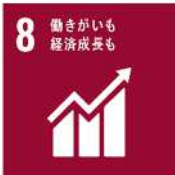
一方、厚生労働省の調査により、「みんなに迷惑がかかる」「後で多忙になる」「仕事の調整が手間」「職場の雰囲気取得しづらい」などの理由で有給休暇取得へためらいを感じる従業員も依然多いことが指摘されている。同社では、従業員教育を強化することで仕事の互換性を高め、業務の効率化を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスをより進めるための福利厚生制度の導入などの取り組みを通じて、有給休暇の取得を促していく方針である。

③SDGsへの貢献

KPIとして定めた「従業員の年次有給休暇の取得率」を引き上げていくことは、SDGs17 の目標のうち、具体的には「8.働きがいも経済成長も」のターゲット「8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）を実現し、同一労働同一賃金を達成する。」の実現に貢献することが期待される。

なお、KPI は以下の SDGs の目標に貢献すると考えられる。

【SDGs の目標】

SDGs の目標	ターゲット
	8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての女性と男性にとって、完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）を実現し、同一労働同一賃金を達成する。

資料:「SDGsとターゲット新訳」制作委員会「SDGsとターゲット新訳 Ver.1.2」
https://xsdg.jp/pdf/SDGs169TARGETS_ver1.2.pdf

4. ローンの特徴

ローン特性は、以下の観点から適切である。

同社は第四北越銀行との間で協議の上、借入条件を決めている。同社は年次別目標の達成状況について、報告期限までに第四北越銀行に対し書面にて報告し、目標数値を達成したことが確認できれば、借入期間中に適用される金利が引き下げられることとなっている。

したがって、借入条件と同社の年次別目標に対するパフォーマンスは連動しており、年次別目標達成の動機付けとなっている。

5. レポーティング

レポーティングは、以下の観点から適切である。

同社は年次別目標の達成状況について、目標達成状況に関する報告書を報告期限までに第四北越銀行に対し、年に1回提出することになっている。

第四北越銀行は、これにより年次別目標の達成状況に関する最新の情報を入手できるとともに、目標達成状況に関する報告書の内容から年次別目標の達成の判定について評価し、達成した際には金利を引き下げる。

以上

第四北越リサーチ&コンサルティング 会社概要

社名	第四北越リサーチ&コンサルティング株式会社
代表者	代表取締役 柴山圭一
所在地	〒950-0087 新潟市中央区東大通2丁目1番18号 だいし海上ビル
業務内容	経営コンサルティング事業、経済調査・研究事業、人材育成支援事業
電話	025-256-8110
FAX	025-256-8102

留意事項

1. 第四北越リサーチ&コンサルティングの第三者意見について

本文書については、貸付人が借入人に対して実施するSDGs リンク・ファイナンスについて、設定する目標や取り組みに対する第三者意見を述べたものです。

その内容は現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

第四北越リサーチ&コンサルティングは本文書のあらゆる使用から生じる直接的、間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

2. 第四北越銀行との関係、独立性

第四北越リサーチ&コンサルティングは第四北越フィナンシャルグループに属しており、第四北越銀行および第四北越フィナンシャルグループとの間および第四北越フィナンシャルグループのお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は第四北越銀行とは独立して行われるものであり、第四北越銀行からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

3. 第四北越リサーチ&コンサルティングの第三者性

借入人と第四北越リサーチ&コンサルティングとの間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係などの特別な利害関係はございません。

4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利は第四北越リサーチ&コンサルティングが保有しています。本文書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されています。